

おおてみち

第61号

平成19年(2007年)10月1日
滋賀県立安土城考古博物館



恵比須侍像 奈良県 天満神社蔵

【Ⅰ部】平安・鎌倉期の名品
から窺う神像彫刻の諸相



△十所権現像(日吉大宮像)
滋賀県 満足寺蔵



○大將軍神坐像(第79号像)

京都府 大將軍八神社蔵

戦国・安土桃山の造像Ⅱ

神像彫刻編

開館15周年記念 平成19年度秋季特別展

【Ⅱ部】戦国・安土桃山期の神像表現とその変容

会期 平成19年10月13日(土)～11月18日(日)

秋の二大記念講演会開催決定!!

特別展記念講演会 10月21日(日)13:30～

「神仏習合と神像の出現」

講師 遠 日出典 氏(岐阜聖徳学園大学名誉教授)
会場 当館セミナールーム
定員 140名(当日先着受付順 参加費無料)

開館15周年記念講演会 11月3日(祝)13:30～

「織田信長の時代」

講師 脇田 修 氏(大阪大学名誉教授)
会場 文芸セミナーヨド大ホール(当館隣接の施設)
定員 380名(当日先着受付順 参加費無料)

戦国・安土桃山の造像Ⅱ

―神像彫刻編―

戦国・安土桃山時代は、中世から近世への大きな転換期に位置するとともに、わが国未曾有の動乱期でもありました。この時代に造立された数々の仏像や神像は、かかる戦乱の世に生き残り、歴史資料としても興味深い内容を秘めています。

このような当代の彫刻の全体像を、鳥瞰しようとはじめられた企画が、戦国・安土桃山の造像シリーズです。本年度の「神像彫刻編」は、平成一六年度の「仏像彫刻・懸仏編」のあとを承けて開催するもので、わが国の宗教史、文化史、美術史上に重要な役割を果たしてきた神像彫刻にテーマを絞った全国初の特別展でもあります。重文・県指定などの指定品をはじめ、展覧会初出品の作品や新資料を含む四五件（二八二軀）の神像と関連遺品を一同に展覧します。

展示構成は二部立てとし、I部では神像彫刻差懸期の作品をはじめ、わが国を代表する平安・鎌倉期の名品を展示し、本展への導入部とします。II部では当代の多彩な作品を陳列し、神像の歴史の変遷を辿ってゆきます。

本展が、見逃されがちだったこの時代の神像を再考し、神像の歴史的・信仰的意義と造形的魅力を再発見する機会となれば幸いです。

主な展示資料（○重要文化財 △県指定文化財）

- △木造地藏菩薩立像（平安時代）
滋賀・大嶋・奥津嶋神社
- 木造男神坐像（平安時代）
滋賀・小槻大社
- 木造女神坐像（平安時代）
滋賀・建部大社
- 木造隨身坐像（鎌倉時代）
滋賀・兵主神社
- 木造男神立像（室町時代）
滋賀・大覚神社
- 木造神像群（室町時代）
佐賀・堀江神社
- 木造山王二十一社差懸神像（室町時代）
滋賀・日吉神社
- 木造伝三宝冠神坐像（室町時代）
滋賀・石山寺
- 木造天神坐像・恵比須翁像・雨宝童子立像（桃山時代）
奈良・天満神社
- 銅造彦山三所大権現坐像（桃山時代）
福岡・英彦山神宮

木造徳川家康（東照大権現）坐像（江戸時代）
京都・南禅寺



【II部】
女神立像（大行奉宮）
滋賀県 日吉神社蔵

（財）滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

滋賀県最古級の石器

―関津遺跡の調査から―

平成一六・一七年度に国道建設に伴って発掘調査を実施した大津市関津遺跡の整理調査から、今回は、平成一七年度の発掘調査で出土した後期旧石器時代の石器を紹介いたします。

石器は、現在の地表面から約一m下の縄文時代以前に形成された地層から一点出土しました。石材はサヌカイトで、長さ約7cm、重さ八・四gを計ります。その形から角錐状石器と呼ばれるものです。この石器は後期旧石器時代後半の約二万年―約一万五千年前までの限定された期間に使われ、九州から東北地方にかけて分布することが知られています。

今回確認されたこの角錐状石器は、縄文時代以前に形成された地層から出土した石器としては県内で初めてで、県内最古級の石器になります。



史跡観音寺城跡出土遺物

写真右 青磁香炉

高さ五・九×直径七・五cm

写真左 青花合子(蓋・身共)

高さ五・二×直径七・〇cm

鎌倉時代から室町時代にかけて近江守護を務めた佐々木六角氏の居城として知られる観音寺城は、安土町と東近江市にまたがる独立山塊である叡山の山頂から南側山麓にかけて築かれた大規模な山城でした。建武二年(一二三三)に佐々木氏頼が観音寺の城郭に立て籠もったという記事が『太平記』に見えますが、現在見られるような石垣を備えた数多くの郭を持つ姿は、戦国時代に整えられたものと考えられます。永禄十一年(一五六八)に織田信長が近江に攻め込み、観音寺城は落城しましたが、中世城郭としては珍しい総石垣造りの山城として、昭和五十七年一月三〇日に史跡指定を受けています。

昭和四四年から四五年度にかけて、近江風土記の丘の建設に伴う環境整備事業の一環として、本丸とその南側に位置する平井丸・池田丸と呼ばれる郭の発掘調査が行われ、礎石を用いた大規模な建物跡や石組みの水溜・水路などの遺構が見つかっています。

出土した遺物は、ほとんどが一六世紀中頃の

もので、土師質の皿のほか、瀬戸美濃産の三耳壺・徳利・天目茶碗・茶入れ・水滴や、信楽焼の撰鉢・水差しといった国内産の陶器、中国からの輸入品である青磁の碗・香炉、白磁の皿、青花の合子などの土器類が出土しています。また、石製の硯や茶臼、金属製品では仏具である五銖杵や、中国から輸入されて国内で流通していた銅銭など、生活雑器や茶道具、仏具など各種の遺物が見つかっています。

観音寺城跡出土遺物の代表的なものについては、第二常設展示室で展示しています。

(田井中洋介)



安土城郭調査研究所通信

安土城下町の外港・常楽寺港

安土山の西方、西の湖に面する集落常楽寺には、中世から港があったことが知られています。この常楽寺港に関する資料を、平成一八年度に実施した石寺区有文書の調査で発見しました。

享保一四年(一七二九)の村明細帳(村の概要を記した帳簿)に、石寺村(現安土町大字石寺)の年貢米を常楽寺港へ運び、そこから大津港まで船で積み出したことが書かれており、常楽寺港が、石寺村の年貢米積出港であったことが確認できました。

石寺村は叡山南麓に広がる集落で、観音寺城の城下があった所です。石寺から常楽寺へは叡山の尾根を越えて行かなければなりません。このように離れた場所からも常楽寺港へ荷物が運ばれていたことは、港の機能が高かったことを示しています。

江戸時代の状況がとどこまでさかのぼるかは難しい問題ですが、安土城下町の外港として栄えた常楽寺港の機能が、江戸時代にも受け継がれたというのは十分考えられるのではないのでしょうか。



博物館の主な催し

1 月	12 月	11 月	10 月	月
10月13日(土)～11月18日(日) 開館15周年記念 秋季特別展 「戦国・安土桃山の遺像Ⅱ―神像彫刻編―」				展 示
博物館の行事				
<p>1月19日(土)～3月30日(日) 第35回企画展「戦国・安土桃山」</p> <p>30日(日) 博物館開館「戦国・安土桃山」(当日受付、140名) 講師：高木敏子(滋賀県立大学) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナリウム 入場料：無料</p>	<p>25日(日) クリスマス親子夜校(当日受付、140名) 「のよっぴのよんたん丸」(1987年 東映動画) 時間：午後1時30分～(上映時間60分) 場所：当館セミナリウム 入場料：無料</p>	<p>18日(日) 体験博物館「和を調へよう」(要申込、先着20名) 時間：午後1時30分～(約2時間) 集合：当館 材料費：50円(実費) 場所：当館敷地内 材料費：50円(実費)</p> <p>11日(日) 体験博物館「和を調へよう」(要申込、先着20名) 時間：午後1時30分～(約2時間) 集合：当館 材料費：50円(実費) 場所：当館敷地内 材料費：50円(実費)</p> <p>4日(日) 親子で楽しむ写真撮影教室 時間：午前10時～午後3時 場所：(三上)東土の丘の区内の各館 参加費：無料 入場予約受付：12月8日～1月6日</p>	<p>3日(祝) 開館15周年記念講演会「織田信長の時代」(当日受付、300名) 講師：藤田修氏(大阪大学名誉教授) 時間：午後1時30分～午後3時30分 場所：文芸セミナリウムホール</p> <p>27日(土) 特別展「キヤラトック」(午後1時30分～) 場所：企画展示室</p> <p>26日(日) 体験博物館「和を調へよう」(要申込、先着20名) 時間：午後1時30分～(約2時間) 場所：当館敷地内 材料費：50円(実費)</p> <p>21日(日) 特別展「安土桃山の神像」(当日受付、140名) 講師：藤田修氏(大阪大学名誉教授) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナリウム</p> <p>14日(日) 博物館開館「東洋の美術史」(当日受付、140名) 講師：藤田修氏(大阪大学名誉教授) 時間：午後1時30分～午後3時</p> <p>8日(祝) 秋のお茶会(当日受付、約100名) 時間：午前10時～午後3時 参加費：50円(実費) 場所：当館敷地内日本庭園学校校舎(園芸文化財)</p>	

＊博物館講座は当館のセミナリウムで実施(無料)

夏の企画展関連行事

安土城下町を探検する

去る8月15日(水)に開催しました第34回企画展関連企画「安土城下町を探検する」について紹介します。

今回の企画は、今は失われてしまった安土城下町を、現地を巡りながら探検を行いました。安土駅で受付をおこない、1時30分に開会の挨拶を行って駅を出発しました。まずは、城下町の西端に位置する浄厳院に向かって、城下町があったころには「下街道」と呼ばれていた朝鮮人街道を歩きました。浄厳院では、普段は非公衆の本堂内部を拝観し、そこで安土城下町と浄厳院の解説を行いました。その後、常楽寺港に移動して冷たい湧水に手足をつけながら一休みし、「惣構どて」の跡と思われる場所や、発掘調査で安土城下町の遺構を発見した安土郵便局、セミナリヨ公園、新宮神社を経て安土城入口の一つである百々橋口に到着しました。猛暑のため大手道は断念し、活津彦根神社に移動して自由解散となりました。

終日、炎天下の下での散策会となりましたが、無事に終了することができました。



おてみち 第61号

平成19年(2007年)10月1日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424

E-mail: gakugei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp